

所属・資格 中国語中国文化学科・教授

申請者氏名 張 麗群

研究課題		初・中級中国語教育における数量表現の導入及びその方法について
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>中国語には数多くの量詞や数量表現がある。文法的に見てもまた表現的に見てもそれは必要不可欠な存在であることはすでに明らかになっている。しかし、現在の初・中級中国語テキストでは常用量詞をいくつかあげる程度にとどまり、中級テキストにおいても重要視されていない。そのため、初・中級の中国語学習者が中国語を使う時、量詞を間違えて使用するか、まったく量詞を使用しないケースが多く見られる。日本語にも助数詞がたくさんあるから、中国語学習者にとっての量詞学習はたいして難しくないと思われがちであるが、しかし実際に日中両方の使用状況を比較してみると、かなり異なる様相を呈している。そこで本研究は中国語数量表現の導入及び方法について考察し、量詞のより習得しやすい方法とは何かについて探ってみた。</p> <p>筆者は日本で使われている初・中級中国語教科書、中国語検定などを調査し、その中から使用頻度の高い量詞（度量衡などを含む）55語を選出し、『初・中級によく使われる中国語量詞（助数詞）55語』にまとめた。</p>
	研究の結果	<p>『初・中級によく使われる中国語量詞（助数詞）55語』ではたくさんある量詞（度量衡などを含む）の中から、使用頻度の高いものを優先して選び、初心者でもスムーズに始められるように、量詞の順番や例文の難易度も工夫し、使用頻度の高いものを先に挙げ、例文もできるだけ簡単で、すぐに使えるようなものを取り上げた。またユニットに分け、まず各量詞の意味を説明した上で、共起する名詞（動詞）を提示し、次に量詞を含むフレーズ、例文を挙げ、さらにレベルアップコーナーを設け、段階を踏みながら習得できるように工夫した。その上、学習者が量詞の定着度を測れるよう、ユニットごとに総合練習問題を用意するだけでなく、全体の量詞を対象とする穴埋め問題も設けた。最後に量詞を効率よく習得するためには、量詞の意味や用法を視覚的にとらえて、イメージすることが大事である。そこで本書は量詞と共起できる名詞（または動詞）をイラストで示した。</p>
	研究の考察・反省	<p>中国語量詞（助数詞）を習得するには量詞の意味及びどのような名詞または動詞と共起するかを知っておく必要がある。その上共起できる名詞、また数量詞が使われているフレーズや例文などを覚えることによって、よりスムーズに習得できるようになると思われる。本書は初・中級に使われる頻度の高い量詞55語を取り上げたが、今後さらに研究を続け、より多くの量詞を取り扱い、中国語量詞の体系を明らかにしていく。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	『初・中級によく使われる中国語量詞(助数詞)55語』朝日出版社 2019年6月1日	